

東京都 ナイトタイム観光部会 第二回メモ

2024年7月23日

ナイトタイムエコノミー推進協議会

齋藤 貴弘

はじめに

ナイトタイム観光部会一回目は、関係各所から大きな反響があり、様々な意見が寄せられた。

東京都のナイトタイム政策は様々な関係者から大きな期待が寄せられている。

それらの期待や声を丁寧に吸い上げ、今後の政策形成に繋げていくことが、開かれたナイトタイムエコノミー政策という観点から極めて重要だと考える。

そのような趣旨から、本資料では特に反響が大きかった点をまとめる。

① 行政・民間が一体となったナイトタイム推進体制の構築

【振返り】

官民が一体となったナイトタイム推進に向けた地域連携体制の構築が重要

→その参考事例としてロンドン：ナイトタイムコミッションの提言によるナイトタイム促進区

(地域単位での面的取り組みの重要性に関する委員コメント)

- ・東京都のナイトライフの課題は「夜の過ごし方の提案」が最多（牧野さん）
- ・差別化ポイントとして、歩くことが多く（WALKABLE）、食、建築、アート、古着文化など「多様な楽しみ方」がある（牧野さん）
- ・築地/豊洲市場/丸の内・仲通り/浅草・仲見世・花やしきなど「エリアトータルでの18時-24時のプログラムを実施」（植野さん）

【反響】

繁華街連絡会（六本木、歌舞伎町、池袋西口、渋谷区関係者の連絡会）、各種事業者、エリマネ団体やまちづくり会社

→各事業者や行政が一体的な取り組みすることは極めて重要。だが、実際の取りまとめは困難

一体的な取り組みを作っていくためには…

- ・大きな旗振りと、皆が旗の下に集える大義や機運が必要
- ・連携して活動していくための枠組み/フレームワークが必要

【提案】

東京都がナイトタイム促進区的な枠組みを創出

・推進体制構築の支援

→ステークホルダー抽出や関係構築、推進のためのビジョン、戦略/計画、推進体制といった地域一体の推進体制の構築を支援

・地域課題解決事業/イベントのための初期予算やナレッジ支援

→過ごし方の提案等の情報発信、エリアトータルのプログラムの実施、安心安全、データ活用やリサーチ、交通労働環境の改善など地域ごとに異なる課題解決の支援

→支援対象は、地域全体の利益に資する公益性のあるもの（これを特定の事業者やボランティアに委ねるとフリーライダーをうむ）

② 東京の夜を代表する都市を舞台とした文化の祭典

【振返り】

- ・行政主導による都庁や絵画館でのプロジェクションマッピングにおいて大きなインパクトを打ち出すことに成功。
- ・さらに**民間との連携体制**を構築し、**街を舞台として実施**することで、**さらなる価値創出**が可能。
- ・そのような**先進事例**として**Vivid Sydney**の例を紹介。街や産業への大きな**経済波及効果**、**文化的・社会的インパクト創出**。

【反響】

- ・イベーターやクリエイター、まちづくり関係者などから大きな反響
- ・東京では**ウォーターフロント**やその**近辺エリア**の**夜間活用**などが議論。

東京都と民間が連携することで世界に誇る光の祭典を作っていくポテンシャルを有している。

- ・港区内にほぼ全ての**民法テレビ局**が存在。情報発信に加え、**スポンサー獲得**による大きな**民間資金調達**が可能。
- ・ホテルやレストラン、エンタメ施設や美術館等の**文化施設**も多くあり、**産業や文化の活性化**にも繋げられる。
- ・ライトアートやイルミネーションなど**すでにコンテンツの集積**がある。イベントが集中して実施される夏休みやクリスマスを外した時期であれば、**コンテンツや機材、人材、ノウハウ等のリソース**を使い各民間事業者が連携して取り組むことができる。

【提案】

東京都はここ数年でナイトタイムコンテンツとしてインパクトあるプロジェクションマッピングの開発と定着に成功。
これから**第二フェーズに入る時期だ**と思い、**いかに民間とのシナジーを作っていくかの検討**が必要なタイミング。

③ 海外先進都市のリサーチや関係構築、東京都への実装支援

- ・上記反響からもわかるとおり、ロンドンやシドニー含め、東京都にとっても非常に参考になる事例がある。
- ・**海外都市の政策動向の調査**や、**ナレッジシェアのための関係構築の強化**
東京都の実情にあわせて実装していくための中間支援的な座組みが必要
- ・JNEAでも最大限取り組んでいるが、東京都と連携することで様々なニーズに応えていけようになる。